



決めた！軍隊はなくても大丈夫！

「平和をつくるこどもたち」

～「軍隊をすてた国」コスタリカから～



* 講師：早乙女 愛

(映像プロデューサー・文筆家)

★プロフィール★

1972年東京生まれ。幼少の頃より、父親である作家、早乙女勝元の取材旅行に同行し、国内外の戦跡をたずね歩く。同志社大学文学部卒業後、商社に就職。OL生活のかたわら父親の海外取材のアシスタントを行う。2001年4月、あいファクトリー設立。ドキュメンタリー映画「軍隊をすてた国」は初プロデュース作品。

軍隊はなくても大丈夫！



決めた！

* 日時：12月4日(金)午後5時10分受付

* 場所：みなーの (島尻教育会館)

参加費は無料♪

★ ★ く平和をつくるこどもたち ~講演要旨~

■ 自分は歴史の一部である (10分)

- ・ 東京生まれの「復帰っ子」
- ・ 団塊ジュニア
- ・ 経済成長の申し子
- ・ ロストジェネレーションと呼ばれる世代であるが、一方で、父(早乙女勝元)の筋金入り平和教育を受けて特殊な家庭環境に育つ

■ 育ちの文化について (10分)

- ・ 型やぶりな母
- ・ 父からの膨大な宿題
- ・ 国内外の戦跡訪問
- ・ そのひとつ中米コスタリカ
- ・ 各地で知った文化の多様性

■ コスタリカの平和教育 (15分)

- ・ コスタリカでの映画制作
- ・ いか「平和」を撮るか？
- ・ そもそも「平和」とは何か？

★ 『 軍隊をすてた国 ダイジェスト版 』 上映(14分)

■ 沖縄の平和教育 (10分)

- ・ 豊富な戦跡と体験の語り継ぎ
- ・ 家族史は人類史

■ 21世紀の子どもたちの宿題 (10分)

- ・ 人とモノを歴史観をもって見ること
- ・ タテ(時間・歴史)のつながり、ヨコ(空間・世界)のつながりを意識すること
- ・ ナナメのつながり(新しい関係性)を発見すること

お誘い合わせの上、ふるってご参加ください！

イラク戦争に賛成した大統領を憲法違反で訴え勝訴し、 発言を取り消させた高校生を育てただけじゃない！

もう一つの平和憲法の国＝コスタリカに学ぶ 2005.8.8 伊藤千尋さん(朝日新聞社「論座」編集部)

アメリカの有志連合国になるのは憲法違反

今年2月、コスタリカから一人の大学生が来ました。ロベルト・サモラ君という学生です。この学生は2年前にイラク戦争がおきた時にコスタリカ大統領を憲法違反で訴えたんです。イラク政権に対してブッシュ政権が戦争を始めた時、コスタリカの大統領がそれに賛成だと言っちゃったんです。そうしたらホワイトハウスのホームページにコスタリカもアメリカの有志連合国だと書かれた。これに対してロベルト君が文句を言った。彼は平和憲法がある国でアメリカの戦争に大統領が賛成するのはおかしいと思って大統領を憲法違反で訴えた。その訴えが通って去年の9月、憲法裁判所が大統領は憲法違反とし、大統領の発言は憲法違反だからなかったことにした。それからさらに大統領に対してホワイトハウスに連絡して、アメリカの有志連合国ということをやめろという命令を下したんです。コスタリカの大統領がどうしたかという、これは日本の首相と違うところで、すぐに裁判所の決定に従い、ホワイトハウスに連絡して、すまんがうちの名前を削ってくれと言った。そうしたら実際に削られました。

ロベルト君が日本にやってきました、そのときに憲法違反の裁判を起こすのは大変ではないかと聞きました。するとロベルト君は2週間で訴状を作ったと言うんです。2週間で作ったなんてすごいなって聞いたら、ぜんぜんそんなことはない、コスタリカでは当たり前だと言う。コスタリカでは別に訴状なんて書く必要はない、電話一本で憲法訴訟ができるんです。コスタリカでは憲法訴訟が一年間で約12000件です。簡単にやれるんです。訴えた人の最年少はなんと8歳です。小学校の2年生です。小学校の2年生がなんと憲法違反を裁判所に訴えることができるんです。それはどういうケースか聞いたら、学校の教育環境が整っていないということでした。「もしも憲法違反です」(笑い)というようなことができるんです。そういうことができるということは小学生がすでに憲法の間接的な感覚を身につけている、すごいと思いませんか。そして、もし何か権利が侵されたら、どこに訴えるかも知っている、しかも行動する、実践するということです。コスタリカでは法律が身近にあるわけです。そしてみんなが法律を使うわけです。そういう社会になっているのがコスタリカなんです。

教育を充実させ、憲法の使い方を生徒に討論させる

もう一つ、私がコスタリカをすごいと思うことは、コスタリカが軍備を捨てたとき、その費用を教育に充てたということです。コスタリカは「兵士の数ほど教師を」というスローガンをつくり、1949年以来、半世紀近く、コスタリカでは国家予算の2割から3割が教育予算なんです。コスタリカは傑出した教育国家になりました。コスタリカの10人に1人は教師の免許を持っています。中米の国はいわゆる途上国です。読み書きできる人は多くありません。小学校にもいけないうちの子が多い。ところがコスタリカだけは識字率がほとんど100%です。中米地域でトップです。

私はコスタリカに行くたびに小学校、中学校、高校を覗くんです。すごいと思うのは、学校では生徒自身に対話をさせるんです。対話をさせて生徒が自分たちの頭で考えるんです。そういう教育をちゃんとやっている。日本の場合、先生が、これが正解でこれは間違い、あるいは丸暗記しろ、なんていう教育をするわけですが、コスタリカは違います。例えば高校の憲法の授業では、先生が、高校を出て就職する人もいるでしょうが、会社に入ったらリストラにあうかもしれない、皆さんがリストラにあったらどうしますか、そのときに憲法をどう使ったらいいですか、と聞くわけです。すると生徒達は、さて憲法をどう使おうかと話し合う。憲法には基本的人権がある、労働権がある、リストラにあったら自分も食えなくなるし、家族も養えなくなる、それは憲法違反じゃないか、だったら基本的人権を使って訴えられるじゃないか、労働権を使って訴えられるじゃないか、そういう話をバンバンする。そういう話が一通り終わってから先生が出てきて、リストラにあつた人が裁判でこういうふうには憲法を使ってたたかったということをやります。実践的なわけです。憲法というもの、あるいは法律というものは神棚に飾っておくものではない、憲法は自分たちのためにある、国民のためにある、ということをやっているわけです。すごいです。コスタリカでは、喧嘩がある、紛争がある、そのときは対話で解決するんだ、暴力をふるうとまた暴力が生まれるんだ、対話が結局は一番の決め手なんだということをやっているから教える、そういうことをやっているんです。